

独自製法で量産・ コスト競争力発揮

一方、シクロケムは、同社が総代理店の独ワックケミーの米国法人・米国ワックケミカルズ製品をベースに、積極果敢な用途開発と実績で、シクロケム・ストリン市場を牽引している。

同社が展開するワックケミカルズは、世界シェアの約八割を占める最大手であると同時に、独自製法と米国での大量生産による低コスト競争力が大きな武器だ。とりわけ従来高価だったαおよびγ-CDの低価格化が、同社のCD新規用途開発を一層加速している。α-CDは、かつては十数万円近かったが、現在では、二十分の一以下までのコスト低減を実現

した。こうしたコスト競争力を武器に、シクロケムは、ワックケム・グループはもとより、国内企業研究機関とのコラボレーションで、α、γ-CDに力点を置いた市場展開で実績を急拡大している。

臨床試験で

効果を実証

代表例が、健康ブームで熱狂的に迎えられたコエンザイムQ10(CoQ10)のγ-CD包接品「ナノサプリ」。ワックケミーとの共同開発で同社の売り上げに大きく貢献した。「あるある大辞典」問題で、一時は影響を受けたが、最近では再び需要を伸ばしている。有効成分の体内吸収率を向上させるなどの改良に加え、γ-CDが小腸内をゆっくり移動するため、一日当たり三十ミリで肝機能、腎機能、心肺機能の向上、肌、血管、筋肉、軟骨の再生効果のあることを国内臨床試験機関で実証、米国栄養学会の学術論文にも公告するなど、の努力による。

同社は、こうした効果実証への先行投資を惜しむことなく実施しており、最近順調に需要を伸ばしているα-CD包接品の同様だ。α-CD包接品はアンチエイジング、ダイエット効果が注目されている。同社はMFCライフテック(旧・三共ライフテック)、今年三月末に三菱化学フーズの一〇〇%子会社化予定)と共同開発した。